

木と人と静岡を結び、ぬくもりの空間

1) 施設名 (用途)	コミュニティ&ダイニングスペース 茶木魚(ちゃきつと) (多目的交流施設)
2) 所在地	静岡市葵区追手町5-1 静岡市役所静岡庁舎3階
3) 事業実施主体	静岡市 (管財課)
4) 設計者	アトリエKAYA 一級建築士事務所 (静岡市)
5) 施工者	静岡木材業協同組合 (静岡市)
6) 施工期間	平成31年1月~3月
7) 施設概要	今回ご紹介するのは、昨年8月にオープンした庁内食堂のリノベーション事業。庁内プロジェクト会議の基本コンセプトであるお茶カフェトークの「交流の場」、静岡オリジナルの「情報発信の場」が「静岡市産材=オクシズ材」をふんだんに使用し、木の香漂うコミュニティスペースとして整備された。
8) 規模 (延面積)	鉄筋コンクリート造 内装木質化 (478.6㎡)
9) 主な使用樹種	(県産材) ヒノキ、スギ 24.7807㎡ (外材) ラワン・アマゾンジャラ 0.2215㎡
10) 施設の特徴等	施設は、「茶」「木」「魚」を柱に静岡市の魅力を五感で感じることができる。また、小上がりスペースを設置することで、赤ちゃん連れからお年寄りまで世代を超えた「交流が」生まれる空間として整備された。10年程利用された学童机の天板は、落書きを残したまま壁装材に、旧青葉小学校の校庭にあったアラスカスギはカウンターとして利用されるなど、人々の記憶と思い出を喚起する巧みな空間演出がなされた。広く道路面に開けた窓周りも木材で装飾されるなど、内装材も家具もオクシズ材が多用され、うるおいとぬくもりに包まれた豊かな空間がデザインされた。なお、本施設は「第3回ふじのくに木使い建築施設表彰」において優良賞 (県知事賞) を受賞した。

【施設の画像】 施設内装全景 (左上)、小上がりのコミュニティスペース (右上)
アラスカスギのテーブル (左下)、エントランス (ルーバー・販売カウンター) (右下)

